令和６年度　北海道教育大学教育学部教員養成課程 入学者選抜

総合型選抜　教員養成特別入試（札幌校）

「講義」　出題の意図

我々は誰もが教育を受けなければならないと考え、また、教育を受けることが大切であると考えている。しかし、教育に不適応を起こして悩む子どもたちは少なからず存在している。教育を受けて社会に適応していくことは、一方で個人にとって自由を抑圧する契機にもなりうる。

教育は「ありがたいもの」なのか。本講義では教育哲学の視点を通して、あるべき教育の姿を今一度考えてみることを目的とする。具体的には、近代教育の始まりに言及した上で、アリス・ミラーが提唱した「闇教育」を参照し、教育の二つの側面―子どもを理性的な人間に育て上げること、子どもの個性や創造性を抑圧すること―について考えさせることを目的とする。

この講義を通して、「教育のよい側面」と「教育が個人を抑圧する側面」とのせめぎ合いについて考えることで、教師を目指すにあたっての教育の難しさを各自が自分事として捉え，「グループ討論」「レポート」につなげられることに配慮し講義内容を作成した。